

# 自共対決時代の本格的な始まり。強大な党建設へ 日本共産党26回大会、上野市議と私も代議員として参加

静岡県熱海市の伊豆学習会館において、日本共産党の第26回大会が15日から18日まで4日間開かれました。

大会には全国から830人の代議員が集まりました。そこに上越市議団の上野議員と私も代議員として参加してきました。私が党大会に参加したのは初めてのことです。

日本共産党の大会は3〜4年に一度の割合で開催され、これまでの活動の総括を行うとともに、今後の活動方針について討論し、決めていく場です。

党大会で決定する最も重要な文書は大会決議



ですが、大会の2ヶ月前に決議案が発表され、全国の支部や地区などで議論されてきました。大会の最終日に採択された決議には、全国から寄せられた意見が反映されると同時に、この2ヶ月間の政治の動きも反映されています。

例えば、安倍内閣が今月閣議決定するとしているエネルギー基本計画については、「安倍政権は、原発を『基盤となる重要なベース電源』として、将来にわたって維持・推進し、『再稼働を進める』とした『エネルギー基本計画案』を発表した（13年12月）。これは、『原発ゼロの日本』を願う、国民多数の民意への挑戦にほかならない」と書かれています。

4日間の大会では決議案や中央委員会報告をもとに65人の代議員が討論に参加しました。特徴的だったのは20代から30代の青年代議員の発言が多かったことです。そのなかにはブラック企業が勤めていて、身も心もボロボロになった青年が自分の苦しみの背景には悪政があることを知り、政治を変える道を歩く人間へと成長していったことを生き生きと語ったものがありました。感動的でしたね。

大会初参加の私も幸運にも発言することができました。私は来春の県議選に出馬するに至った経緯や記者会見後の市民の皆さんからの励ま



しの声などを紹介しつつ、必勝の決意をのべました。また、選挙に勝つための宣伝のあり方などで提案をしてきました。うれしかったのは、発言が終わり、自席に戻ろうとした時、通路側の席に座っていた



【ヒメオドリコソウ】「姫踊り子草」とも書きます。シソ科の一、二年草です。熱海市で開かれた党大会の会場へ行く途中で見つけました。「春の舞姫」がもう咲いているのでびっくりしました。熱海には冬はないと思いました。18日撮影

長野県栄村の元村議、広瀬進さんが手を上げてハイタッチしてくださいました。広瀬さんは、私が旧吉川町議時代、栄村の下駄ばきヘルパー制度や田直し事業などの取組や議員活動の在り方について、いろいろと教えてくださった方です。

大会での討論、発言などをふまえて練り上げられた大会決議では、昨年の参院選後、「自共対決」時代が本格的に始まるうとしている中で、安倍自民党政権が消費税増税や原発再稼働、TPP問題などで危険な暴走をしていることが具体的に明らかにされました。また、国政と地方政治で躍進を本格的な流れにするために強大な党建設をしていく方針も示されました。

## 足立正恒さんと再会

大会では、何人かの懐かしい人と再会しました。



旧柿崎町出身、足立正恒さんもその一人です。足立さんはいつも私のことを気にかけてくださっています。ありがたいですね。足立さんは今回の大会で中央委員としての仕事をやめられることになりました。ご苦労様でした。

橋爪のりかずの  
市政レポート

NO 1641  
2014.1.26

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 025-548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ  
090-5392-1961

# 春よ来い 第二八九回 裂けた木の枝

「見て、あの木、芽が出ているわよ」私の前方を歩く女の人の声を聞いたのは伊豆学習会館へ行く坂道を歩いている時でした。

目を向けると、道路から数分入った畑の平らなところに直径三〇センチくらいの木があり、下の方の枝が裂けて横たわっていました。枝は長さが二メートルを優に越えていたと思います。その枝の先に赤橙色（あかだいいい）をした芽が出ていて、一〇センチほどの長さに伸びていました。

幹から大きく裂けた枝は誰が見ても、このままでは助からない状態でした。半端な裂け方ではなかったからです。幹とつながっているのは枝の付け根の部分で、それも裂けた枝の内側が白く、むき出しになっていました。幹から枝へはほとんど栄養分がいかになくなったのでしょうか、それでも生きようと必死になって芽を出している、私にはそう見えませんでした。

その木と枝を見つけてからは、そこを通るたびに立ち止まるようになりました。もちろん、帰りの時間が暗くなってきたときは別です。この木の様子はカメラにも収めませんでした。生命力のあふれた、これほど頑張っている木の姿は記録に残しておきたいと思っただけです。カメラで撮った画像をパソコンで拡大してみたら、枝の先の部分は地面に着いていることがわかりました。ひよつとすると、この芽の下の方では根が伸び始めているかも知れません。

冬の時期に太平洋側で四日間も過ぎたのは約四〇年ぶりでした。四日間の党大会は毎日晴れ、日本海側とはちがうもんだと改めて思いました。しかも、今回は暖流の影響を受けている熱海市です。気温は高く、冬とは思えない暖かさでした。

党大会会場の伊豆の学習会館は熱海市の上多賀地域にあります。海がかなり下の方に見えましたから、海拔二〇〇メートルくらいでしょうか。JR東海道線の伊豆多賀駅からゆっくり歩いて四〇分かかります。暖かい気温の中で、この時期の雪国では見られない植物の姿を見ることができました。

住宅街では、黄色い花を咲かせたスイセン、二等辺三角形をした赤いサボテンの花などがまじり目に入りました。住宅街を抜けて、ミカン畑や雑木林の付近を歩くようになってからは、野の花が気になりました。いくつかの葉が重ねられ、その上の方に小さな紫のつぼみをつけているのはヒメオドリコソウです。これはそう遅くない時期に咲くに違いない、そう思っただけでわくわくしました。

びっくりしたのは石垣が積まれた脇の坂道を歩いていた時でした。明らかにスマレとわかる紫色の花がありました。なんとということでしょう、ここではもうスマレの花が咲いていたのです。しかも、ひとつだけではありませんでした。前に進むと一つ、またひとつと咲いていました。全部で五個か六個くらい咲いていたと思います。雪国では考えられない開花でした。

裂けた木の枝が芽を出した、これも雪国ではありえない光景だったと思います。温暖な気候がもたらしたものとせば、それまでもかも知れません。それでも私は、この枝の頑張りを見て、とてもうれしくなりました。

大会の発言で一番印象に残ったのは様々な困難を乗り越え、社会変革の道歩み始めた青年たちです。ある青年が最後に言ったのは、「まだまだ苦しんでいる青年たちがある。その人たちに希望を届けたい」。私はこの木の枝を思い出していました。

中間には高田城を造るとき工事事務所兼暫定的な役所の機能を持った御仮屋（おかりや）が置かれていたことなどを明らかにし、注目を集めました。

## 総務委が空き家対策で勉強会開催

総務常任委員会は21日、空き家対策の条例化を目指し、勉強会を開催しました。

この日は、正副委員長が作成した「空き家等の適正管理および活用促進に関する条例」（仮称）のたたき台をもとに、委員間で約1時間半にわたり意見交換しました。

意見交換では、「適正管理だけでなく、活用をもっと前に打ち出すべきで、活用についてはそのための条文も用意した方がいいのではないか」「空き家を壊すことは壊したが片づける費用がない人がいる。また、その後の、固定資産税の増税にも苦しんでいる人もいます。その対策も必要」などの声が出ていました。

総務常任委員会ではもう1回、勉強会を開催する予定です。

## 高田開府をめぐる経過や謎に迫る…中西課長講演

今年が高田開府400年です。市議会では21日、中西聡文化行政課長を迎えて議員勉強会を行いました。

中西さんは、「高田開府400年を迎えて～頸城は一つな里～」と題した講演しました。中西さんは、「きょうは謙信公の誕生日です」と切り出し、「合併後10年目になったが、長い歴史の目で見ると、謙信の時代では長野県北部まで支配していた。頸城地方はもともと一つだった」とのべました。そして、わずか7年間の間に春日山城下の住む人たちが春日山から福島城、そして高田城へと移った、その経過や寺町の形成の意味などについてわかりやすく語りました。

中西さんの講演はいつもたんたんと語りながら、興味深い事実を示して聴衆をひきつけます。この日も福島城と高田城は南北線上にあり、その

中間には高田城を造るとき工事事務所兼暫定的な役所の機能を持った御仮屋（おかりや）が置かれていたことなどを明らかにし、注目を集めました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

|        | 1月15日(水) | 1月22日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.026    | 0.036    |
| 上越北消防署 | 0.050    | 0.050    |
| 新井消防署  | 0.036    | 0.056    |
| 頸北消防署  | 0.056    | 0.050    |
| 頸南消防署  | 0.057    | 0.050    |
| 東頸消防署  | 0.040    | 0.047    |
| 高士分遣所  | 0.053    | 0.053    |
| 名立分遣所  | 0.047    | 0.043    |